

## 中間処理業者に対するヒアリング

## ○ヒアリング対象（いずれもモデル事業先行地域）

1. （株）エコリサイクル
2. （株）リーテム
3. 柴田産業（株）

## ○事前依頼項目

リサイクルシステムの経済性評価について

1. 昨年度実施した経済性評価について実態と乖離していると考えられる点。  
参考：平成21年度とりまとめ資料（p.4-1～4-7など）  
[http://www.env.go.jp/recycle/recycling/raremetals/conf\\_ruca.html](http://www.env.go.jp/recycle/recycling/raremetals/conf_ruca.html)
2. 使用済小型家電回収に係る収益（便益）・費用について、別表以外に考慮すべき項目の有無。また、使用済小型家電の中間処理に要する実操業ベースの費用・収益。さらに、作業工程の追加と得られる成果物の資源性向上の関係（作業を丁寧にする、あるいは追加すると売却額は高くなるが、当然費用も高くなる。そのあたりのバランスはどのように取っているのか）。
3. 経済性の観点から最低限対応可能な処理ロット・処理量と現状施設で最大限対応可能な処理ロット・処理量。処理量を増やす際に設備投資が必要な場合はその費用と費用回収期間。

リサイクルシステムの構築に向けた課題の整理について

4. モデル事業における使用済小型家電の中間処理について、既存制度との整合性（法律の遵守や中間処理の効率化等）を図るために苦労した点。
5. 一般的に、使用済小型家電の中間処理に関して、処理の程度や品質の決定主体（どのような処理・品質にするかについて、非鉄製錬業者・貴金属専門メーカー・レアメタル専門メーカー等のニーズを把握して中間処理業者が決定しているのか、それとも先方から受入品質について指定があるのか）。
6. 使用済小型家電の中間処理について、①処理量及び②処理費用の観点から、効率化するために考えられる施策（既存制度への改正要望、新たな中間処理フロー（技術も含む）の提案、対象品目・対象鉱種に対する提案等も含む）。

## ○事前アンケート結果

別紙の通り。